

あ い さ つ

田川郡教育研究所 所長 縄田 哲也

新春を迎え、皆様方にはますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。

さて、福岡県においては教職員の大量退職、大量採用時代に入っており、私たちの田川郡においても50歳代の教員が約45%、40歳代の教員が約40%と、この10年間に約半数の教員が退職を迎えます。

さらに言えば、このような教員の年齢構成の中で、また、学校を取り巻く社会情勢の変化により、学力向上、不登校の問題、規範意識の育成、地域との連携、保護者の要望・苦情への対応など、今までの経験や方法では対応しきれない状況も生まれてきています。

これらの状況を考えますと、若い先生方の早急な、教師力、人間力のスキルアップは時代の要請と考えてよいのではないのでしょうか。

そこで、今年度夏季休業中に研究所と小中学校の校長会とが連携をし、管理職、中堅教員から若年教員までが参加可能な人材育成プログラムを作って、2学期から小中学校それぞれで研修を行っています。その内容については、若い先生方には基礎的な教科経営力や学級経営力の習得、中堅の先生方には、さらに多様な経営力の習得などと、実践力を身につけることができる内容となっています。

教育研究所としましては、来年度以降についてはさらなる内容の充実を図っていく必要があると考え、小中学校校長会との連携をさらに深め、人材育成を中核に据えた活動を行っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

平成25年度の田川郡教育研究所の主な事業

1 研究事業

◎ 研究主題に基づき、調査・研究・実践に取り組む。

2 研修事業

- (1) 田川郡教育研究所「教育実践発表会（論文表彰式を含む）」の実施
7月29日（月） 於 福智町金田分館
- (2) 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会への参加
8月20日（火） 於 イイヅカコミュニティーセンター
- (3) 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会への参加
11月21日（木） 於 福岡市教育センター
- (4) 教育実践研究に関する研修会の実施 [筑豊地区教育研究所連絡協議会主催・筑豊教育事務所後援]
- (5) 小・中学校授業エキスパート養成講座の実施 [筑豊教育事務所主催・筑豊地区教育研究所連絡協議会共催]

3 研究物等の発行

- (1) 教職員名簿（5月配布）
- (2) 所報（第106号：7月配布、107号：1月配布）
- (3) 研究紀要（第53集：3月にCDで配布予定）

4 教育論文の募集

○昨年度応募数：18本（小学校：15本、中学校：3本）

研究の概要

1 研究主題

「学習指導と評価に関する研究」（3年次）

～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～

2 主題設定の理由

（1）社会の要請と教育改革の動向から

知識基盤、グローバル社会化など社会が急速に変化し価値観が多様化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考に基づき判断することや異なる文化や歴史や立場にある人々と尊重し合って共存していくことなど、変化に対応し問題をよりよく解決する能力が一層求められている。

しかし、OECDのPISA調査、全国学力・学習状況調査など国内外の各種学力調査結果によると、我が国の子どもたちの課題として、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことがあげられている。

これらの状況を踏まえ、中央教育審議会でも審議・答申が重ねて行われた。そして教育基本法、学校教育法が改正される中、小学校において平成23年度から、中学校においては平成24年度から新学習指導要領が完全実施された。新学習指導要領は、子どもたちの現状に鑑み「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」を育むという理念を中核にすえたものであり、とりわけ「確かな学力」については、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、知識技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成しながら学習に取り組む意欲を養うことを重視するという、バランスのとれた学力の育成をめざしたものになっている。特に改訂にあたって充実すべき重要事項の第1番目として「言語活動の充実」があげられ、各教科を貫く改善の視点として示された。

以上のようなことから、各教室において展開される学習指導においては、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成すべく言語活動を充実させるとともに、それらが確実に身に付いたかどうかを見取る学習評価の充実が図られなければならない。

（2）田川郡の児童生徒を取り巻く状況から

本郡の状況を見ると、経済的に厳しい状況にある家庭が依然として多いこと、基本的な生活習慣が定着しにくいこと、将来への肯定的な展望をもちにくく不登校が増えていることなどの課題が挙げられ、依然、子どもたちの学力の向上と進路の保障が大きな課題とされている。

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、徐々に改善は見られるものの依然全国平均よりもかなり低い数値であり、特に思考力・判断力・表現力を問うB問題でポイント差は顕著である。

したがって、子どもたちの学力向上と進路保障を実現するためには、基礎・基本となる知識技能を確実に定着させるとともに、知識技能を活用する思考力・判断力・表現力を高める教育実践研究が喫緊の課題である。

（3）これまでの研究の経過から

平成10～11年度	「生きる力」をはぐくむ授業づくり
平成12～13年度	「生きる力」を育てる総合的な学習
平成14年度	「生きる力」を育てる教育課程の展開 ～評価活動の充実をとおして～
平成15～17年度	学力実態及び学力向上の取組に関する調査・研究 ～学力検査結果の分析と実践事例の収集をとおして～
平成18～22年度	「学力向上の取り組みに関する研究」 ～生きる力を身につけた児童生徒の育成～
平成23年度～	「学習指導と評価に関する研究」 ～言語活動の充実を図った学習指導と 新しい評価の実践事例の収集を通して～

3 主題の意味

(1) 学習指導とは

学習指導は、学習者の学習を援助し促進する教師の営みであり、学習者の知識・理解・技能・思考・表現等の能力、及び学習意欲・態度をより高次のものへと引き上げる計画的・意図的な教育活動である。今回の学習指導要領の改訂では子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動をするとともに、その際言語活動を充実させて特に思考力・判断力・表現力を育成することが重視されている。このことから本主題の学習指導とは、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけさせるとともに、言語活動を通してその知識及び技能を活用して思考力・判断力・表現力を高めさせる授業における教師の教育活動を指す。

(2) 評価とは

評価は、子どもの学習状況を知り、学習目標の設定や指導方法の工夫などの改善に役立てるためのデータを得る活動である。今回の学習指導要領の改訂により、評価の観点が変更され、「技能・表現」が「技能」となり、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となった。これは、言語活動を通し知識・理解を活用して思考力、判断力、表現力を高める学習指導が重視された結果に他ならない。新しく設定された観点である「技能」は、教科内容としての表現力をこれまで通り評価することになる。一方、「思考・判断・表現」で示された表現は、これまでの「技能・表現」で示されていた表現とは異なり、「思考・判断」したことの過程や内容がわかるように言語で表現するものである。そのため、学習指導において言語活動が重視されているわけである。よってこれからの評価は、思考力、判断力、表現力を評価することが重視されることとなる。よって本主題で言うところの評価も思考力、判断力、表現力を第一義に生徒の能力を見取り、計画・指導・評価・改善を有機的に結びつけることを指す。

(3) 学習指導と評価に関する研究とは

思考力・判断力・表現力を育むための、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習指導のあり方、及びそれらの力が身に付いたかどうかを見取る新しい評価について、各教科等部会ごとに教育実践研究を行い、各教科の特性及び田川郡の実態に応じた指導と評価のあり方について究明することを指す。

4 研究の目標

各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動において、新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけるための学習指導と評価のあり方について究明する。

5 研究の内容

- (1) 各教科・領域等の学力や児童生徒の実態を分析する。
- (2) 各教科・領域等における主題を設定する。
- (3) 各教科・領域等における主題を達成すべき学習指導と評価方法を明らかにする。
- (4) 各教科・領域等において主題に基づいた研究実践を行う。
- (5) 各教科・領域等において実践事例としてまとめ、成果と課題を明らかにする。

6 研究の計画

【3年次】

- ア 研究主題・副主題の検討
- イ 主題に基づく理論研究
- ウ 実践研究（各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動）
 - 授業計画
 - 検証授業
 - 考察・まとめ
- エ 研究のまとめ
- オ 研究紀要の作成

小学校教科等部会 活動報告

【国語科部会】 部会長 校長 桑野 徳隆

- ・ 講師研修会「物語文の教材研究」
- ・ 講師研修会「説明文の教材研究」
筑豊教育事務所 松崎弘明 指導主事
- ・ 福岡県児童文集田川郡審査
- ・ 福岡県児童書写田川郡審査

【図画工作科部会】 部会長 校長 中川 雅彦

- ・ 組織づくりと活動計画作成
- ・ 実技研修及び作品の相互鑑賞
- ・ 県小図画工作研究大会参加（南当仁小）
- ・ 授業実践の交流と実践集の作成
- ・ 作品鑑賞（県児童画展作品）

【家庭科部会】 部会長 校長 渡邊 伴子

- ・ 組織づくり及び研修計画立案
- ・ 実技講習会 指導：栄養教諭 安倍 ちか先生
- ・ プランに沿った指導案作成
- ・ 筑豊地区家庭科教育研究大会（上野小学校）参加
- ・ 実践交流会 本年度のまとめ

【社会科部会】 部会長 校長 高瀬 光一

- ・ 組織づくりと活動計画作成、実践交流
- ・ 平成筑豊鉄道(株)本社見学、実践交流
- ・ 全国小学校社会科教育研究協議会
福岡大会参加（北九州市内3小学校）
- ・ 本年度の反省とまとめ

【体育科部会】 部会長 校長 角崎 計介

- ・ 組織づくりと年間計画
- ・ 近接学年毎の実践交流と情報交換
- ・ ゲーム・ボール運動実技講習会（糸田小）
- ・ 研究実践（中元寺小 稲富 秀美 教諭）

【算数科部会】 部会長 校長 太田 亮一

- ・ 組織づくりと活動計画作成、情報交換
- ・ 指導案作成と授業の実践交流
- ・ 教科書の分析と指導方法の考察
- ・ 活用力を高める算数問題の演習
- ・ 本年度のまとめ

【道徳部会】 部会長 校長 中村 英子

- ・ 講師招聘研修会 「心を育てる道徳教育」
講師 筑豊教育事務所 種具朋一郎 先生
講師 文部科学省 赤堀 博行 先生
講師 明治大学 諸富 祥彦 先生
- ・ 小学校道徳教育研究大会（落合小学校）参加

【理科部会】 部会長 校長 池之上 虎男

- ・ 実践交流、学習指導情報交換
- ・ 筑豊地区小学校理科研究会研修会への参加
- ・ 福岡県小学校理科教育研究大会への参加
- ・ まとめと次年度の課題整理

【外国語活動部会】 部会長 校長 杉原 哲彌

- ・ 組織づくりと研修会計画立案
実践報告：糸田小学校 野村謙二 先生
- ・ ミニ実践事例紹介 部会員全員発表
- ・ 公開授業研修会 糸田小学校 仲野愛海 先生
- ・ 本年度のまとめと反省

【生活科・総合的な学習の時間部会】

部会長 校長 中川 真一

- ・ 組織づくりと活動計画・内容の確認
- ・ 実技研修「朝顔の鉢植え」
講師 市場小学校 桑野 裕二 教頭先生
- ・ 実践交流、情報交換など

【特別活動部会】 部会長 校長 井上 憲治

- ・ 組織づくりと活動計画・内容の確認
- ・ 低・高学年部会ごとの情報交換と交流
- ・ 公開授業（市場小 大久保 利詔 先生）
- ・ まとめ及び次年度への課題整理

【音楽科部会】 部会長 校長 永水 正博

- ・ 組織づくり及び年間計画作成、実技研修
- ・ 実技研修会（曲想を活かしたリズム作り）
- ・ 授業研究（九音研福岡大会に参加）
授業者 香春小学校 荒金 かずき 先生
- ・ 実践交流、本年度の反省とまとめ

【特別支援教育部会】 部会長 校長 古田 浩治

- ・ 組織づくり、活動計画案作成、
情報交換等
- ・ 講話 筑豊教育事務所指導主事
原田 智佳 先生
- ・ 本年度のまとめと反省

中学校教科等部会 活動報告



【国語科部会】 部会長 校長 小田 玲子

- ・新年度組織と年間活動計画、講話（6月）
- ・筑豊地区中国研修会参加（8月）講話「楽しい国語科授業の創造を目指してⅡ」
- ・公開授業（10月）大任中 平岩 志保 教諭
- ・第65回田川郡中学校書写大会（10月）

【保健体育科部会】 部会長 校長 高橋 孝徳

- ・組織づくりと年間計画の作成 ・本年度体力向上プランの集約 ・公開授業（10月）2本
- ・赤中学校 柿本 達郎 教諭（指導案のみ）
体育分野「バドミントン」
- ・鷹峰中学校 金川 実 教諭 体育分野「剣道」

【社会科部会】 部会長 校長 白石 俊幸

- ・本年度の研究テーマ「評価方法の研究」
- ・平成25年度授業研 1月 内田 章太（金田中）
- ・実践報告 中野 純孝（方城中）

【技術・家庭部会】 部会長 校長 鍋藤 聖一

- ・学習指導の研修会（家族と家庭生活）
- ・公開授業（香春・金田中）事前事後の審議
- ・研究紀要の審議・県大会参加（北九州大会）
- ・九州大会福岡大会実践発表に向けての研究

【数学科部会】 部会長 校長 縄田 哲也

- ・研究テーマ・組織決め、年間活動計画、活動内容の確認
- ・公開授業研究（1月）
- ・県数学科研究発表会等参加、年間のまとめ

【英語科部会】 部会長 校長 奥 浩幸

- ・組織、年間計画作成等
- ・実践研究 糸田中学校 福田 和憲 教諭
- ・九州地区英語教育研究大会参加（11月）
会場：福岡工業大学

【理科部会】 部会長 校長 坂本 和紀

- ・組織づくり、研修計画作成
- ・公開授業：大任中学校
- ・実験講習会：赤中学校
講師 小泉 憲司 先生

【道徳部会】 部会長 校長 小田 玲子

- ・新年度組織と年間活動計画等（7月）
- ・公開授業（1月）大任中 吉田 大地 講師
- ・心に響く道徳の時間実践事例集 第7集
[内容項目3：主として自然や崇高なもののかかわりに関すること]作成（2月末発行）

【音楽科部会】 部会長 校長 友松 秀樹

- ・研究テーマに沿った組織・活動計画策定
- ・各校合唱コンクールへの協力体制審議
- ・中音研各行事（九州大会・県大会・リコーダーコンテスト・創作コンクール）への参加体制審議

【総合的な学習の時間部会】

部会長 校長 白石 俊幸

- ・本年度の研究テーマ「実践のあり方の研究」
- ・組織、研修計画づくり、情報交換
- ・実践報告：池尻中学校 武田 倫明 主幹教諭
- ・平成26年度県報告会準備

【美術科部会】 部会長 校長 村上 きぬよ

- ・研究テーマに沿った研究・研修の推進
- ・組織づくりと年間計画の作成
- ・県美術教育研究大会及び公開授業への参観
- ・県中学校美術展への作品出品

【特別活動部会】 部会長 校長 奥 浩幸

- ・組織、研究計画作成等（糸田中学校）
- ・学級活動の実践研究
香春中学校 鷺尾 佳子 教諭
- ・研究紀要の審議

研究発表会実施校の紹介



香春町立探銅所小学校

【実施日】11月1日

【学校教育目標】

志をもって意欲的に学び、
健やかな心身と豊かな社
会力をもつ子どもの育成

平成24・25年度香春町研究指定・委嘱

確かな読みの力を育てる国語科学習指導

～かく活動・交流活動を位置づけた学習指導過程を通して～

〈研究の特色〉

国語科において、確かな読みの力を育てる学習指導を究明するために以下の2点から検証した。

- 学習指導過程の工夫「つかむ」→「ふかめる」→「まとめる」
- 「かく活動」「交流活動」の工夫

〈成果〉

- ・ノートやワークシートを工夫したりパターンを示したりすることは、読み取る力を育てる上で有効だった。
- ・自分が書いた文章を進んで発表したり、友だちが書いた文章のよさを伝えたりしようとする姿が見られるようになった。
- ・書くことへの抵抗が少なくなり順序を考えて文章をかくことができるようになった。



添田町立落合小学校

【実施日】11月8日

【学校教育目標】

心やさしく、
心身ともにたくましい
児童の育成

北九州・筑豊地区小学校道徳教育研究会

添田町教育委員会研究指定・委嘱

豊かな心を育む道徳教育の創造

～心に響く道徳の時間を創る指導方法の工夫～

〈研究の特色〉

心に響く道徳の時間の指導の在り方を究明するために以下の4点から検証した。

- 資料の活用・提示方法の工夫
- 指導方法(学習指導過程・発問・板書・表現活動)の工夫
- 体験を生かした指導の工夫
- 「心のノート」の積極的な活用

〈成果〉

- ・研究授業を重ねるにつれ、教師の指導方法の改善が図られた。
- ・指導方法の工夫により、主人公の心情の変化を効果的に把握したり、追求すべき道徳的価値を主体的に考えたりすることが、授業を重ねるにつれできるようになった。



香春町立香春中学校

【実施日】11月8日

【学校教育目標】

志をもって意欲的に学び、
たくましく未来へ羽ばた
く生徒の育成

健全な食生活の実現と豊かな人間性を育む

「食育」指導法の研究

～教科・領域における指導方法の工夫改善を通して～

〈研究の特色〉

①地域とのつながりの深化…地元香春町の食生活改善推進会や道の駅かわら、JA田川との連携を図り研究を進めることで、つながりを深めることができました。

②体験活動・体験学習の充実による食に対する知識の定着…食育の推進を図るための手立てとして、体験活動や体験学習(実験・実習)を取り入れたことで、食に対する知識の定着がはかれました。

③食に対する意識の向上…「食育」のとりくみを始める以前と本年度を比較すると、朝食を食べることの大切さを感じ、実行している生徒が増え、県平均を上回った。また、食事の手伝いに対する意識も依然と比べて、自ら積極的に取り組もうとする姿が見られるようになりました。

平成25年度

教育論文募集

田川郡教育研究所では本郡の教育活動の充実と振興に資するため、「志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい子ども」の実現のために、日々の教育実践に取り組んでいる教職員の教育論文を募集しています。

詳細につきましては、募集部門・募集内容・応募要領等を記載した《平成25年度教育論文募集要項》を田川郡各町村教育委員会並びに田川郡内各小・中学校に配布しておりますので、ふるってご応募ください。

[提出等について]

平成26年1月17日(金)までに当該町村教育委員会教育長宛にご提出ください。

教育実践発表者の紹介

◎田川郡教育研究所教育実践発表会

- 発表者：糸田町立糸田小学校
教諭 荒川 正史 先生
- 主 題：『 学力向上を図る
組織的な取組の実際 』

- 発表者：川崎町立川崎中学校
指導教諭 田丸 陸子 先生
- 主 題：『 学力の向上をめざして 』
～教科の本質に立った
授業づくりを通して～

◎筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会

- 発表者：川崎町立池尻中学校 教諭 北崎 七恵 先生
- 主 題：『 生命を深く見つめる授業 』
～脳死と、それに伴う臓器提供を通して～

◎福岡県教育研究所連盟研究発表協議会

- 発表者：福智町立市場小学校 教諭 高瀬 大輔 先生
- 主 題：『 自分の考えを筋道立てて表現する子どもを育てる算数科学習指導 』
～「問いづくり」「思考づくり」「価値づくり」の3つの場における
思考の焦点化と可視化の支援を通して～

1 年 間 の 長 期 研 修 を 終 え て

福智町立市場小学校 教諭 高瀬 大輔

平成24年度長期派遣研修員として福岡教育大学附属小倉小学校で研修させていただきました。特に算数科の研究を通して、自分の授業を見つめ直す貴重な機会となりました。

この1年間、「授業が上手になりたい。」との思いでいくつも研究授業を積み重ねてきました。教壇に立つ一人の授業者として、子ども達一人一人に力をつけるべく、真摯に授業に向き合った経験は私の財産となりました。

また、算数科だけでなく、他教科・他領域の研究授業を通して、教科・領域の本質や授業技術も学ばせていただきました。さらには、授業づくりが、人への気配り・心配り、時間の意識など普段の行動一つ一つとつながることも附属小倉小学校の先生方に気づかせていただきました。この経験を、これからの教育実践に生かすとともに、自分の実践を常に振り返りながら、さらなる自己研鑽に励む覚悟です。

このような素晴らしい研修の機会を与えてくださった関係の皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

福智町立赤池中学校 教諭 桑城 直子

昨年度、福岡県教育センター教育経営部教育経営班の長期派遣研修員として研修を受ける機会をいただき、研究主題を『自分観を広げることのできる生徒を育てるキャリア教育の一方途～総合的な学習の時間の学習指導過程に「対話」を生かした自己モニタリングを位置付けて～』とした実践研究を行いました。

今まで研究とは縁遠かった私にとって、「キャリア教育とは何か」から始まる正に0からのスタートでしたが、指導主事の先生方の指導助言を頂きながら、何とか最終報告をまとめることができました。振り返ると、昼夜研究漬けの毎日でしたが、自分の成長が実感できた1年でもありました。また、研修期間中「福岡教師塾」をはじめとする諸講座に参加し、著名な講師の先生方の話を聴くことができたこと、県全域から集う多くの長研員の先生方と出会い、語らうことができたことは、私の大切な財産となりました。ぜひ今後の教育実践に生かしていきたいと思っています。

最後にこのような貴重な研修の機会を与えてくださった関係諸機関、在籍校の皆様方に心より感謝を申し上げます。

食育だより

福智町立金田小学校 栄養教諭 松井 和美

10月24日に福岡県学校給食料理コンクールが開催され、田川郡を代表して添田中学校の調理員さんが参加しました。季節の果物「柿・梨」を利用したり、中学生に食べさせたい食品「大豆製品や海藻類」を工夫して取り入れたりして考えた献立でした。厳しい審査員の目のある中で、また、慣れない調理台で緊張しながらも手際よく調理しました。

また、11月8日には、2年に1度の田川郡学校給食研究発表会が香春町立香春中学校で開催されました。教科や各領域の授業が全学年で公開され、2年間の歩みが報告されました。また講演には、川崎町のラピュタファームの杉本様と竹内様にお越しいただき、食に対する様々な思いや取り組みについて、貴重なお話をお聞きすることができました。

☆☆☆ノロウイルスにご用心ください☆☆☆

11月中旬頃からノロウイルスによる感染性胃腸炎の患者さんが増えているようです。給食調理においては、細心の注意を払っております。給食を介して感染しないために、児童生徒の手洗い指導やおう吐物の処理等、校内で対応の周知徹底をお願いいたします。

養護だより

福智町立赤池中学校 養護教諭 清水 祐

田川郡学校保健会は10月25日に視察研修を実施しました。午前中は太宰府市に2年前新設された福岡県立太宰府特別支援学校を訪問し、栗栖義弘教諭より特別支援教育についての講話と施設内見学をさせていただきました。支援が必要な児童生徒の特性や対応の基本、保護者との連携・協力の必要性、養護教諭に求められること・出来ること、学校での対応の仕方を学ぶことができました。午後からは特別支援教育を推進する中心的指導施設「福岡市発達教育センター」を訪問し、施設の概要や活動内容を見学、説明いただいた後、同施設内にある発達障がい者支援センター「ゆうゆう」の緒方よしみ所長より「学校に行けない・行かない子どもたち」と題して講話をいただきました。発達障がいは脳機能の障がいによるもので低年齢において発現し、その特性から不登校リスクは高くなりがちであることや定型発達と発達障がいの違いについて具体的にお話いただく中で、発達障がいのある子どもの特性や家族の不安を認め、理解することから適切な支援へつなげる重要性を学びました。特別支援教育について一日有意義で充実した研修ができました。

田川郡教育研究所の今昔

田川郡教育研究所OB 須山 永春

退職後25年になりますが今なお一番の関心事は学校教育にかかわる事柄です。研究所は社会や時代が求める教育課題を把握して、その解決、実践の方策を共有する先導役を務めることにあるのではないのでしょうか。私は昭和37、38年の専任幹事としての2年間で昭和50年から5年間教頭職で兼任幹事を務めた二度の機会がありました。前段の2年間は小中各2名の専任幹事でしたが、郡小中研究協議会の設立と各教科研究部会を組織して、その事務局を務めました。後段の5年間は組合運動が激しくなり、主任制反対闘争から研究所離脱を進めたため研究所維持など研究所の危機的時期でした。研究の事業や内容で主要なものは、田川郡小中学校の教育カリキュラム作成、「田川の学習」ドリルの作成でした。研究としては、学習内容の増加に伴い、いかにして効率的効果的に学習の理解度を高めるか、ソフト、ハード両面から取り組みました。

現在は週休2日制で授業時数の確保に支障が起こりがちになると思いますが、学習の深化、基礎学力の定着はいっそう主要な教育課題になっているのではないのでしょうか。明日に向かって育つ児童、生徒の教育にいっそうの情熱を注いでいただきたいと思います。

平成25年度 田川郡教育研究所職員

所長	縄田 哲也 (赤中学校 校長)	副所長	森 秀二 (添田小学校 校長)
幹事	平野 志津夫	書記	有田 真理子
主任研修員	益田 茂 (川崎小学校 教頭)	主任研修員	白石 毅 (赤中学校 教頭)
研修員	荒川 正史 (糸田小学校 教諭)	研修員	高瀬 大輔 (市場小学校 教諭)
研修員	岩川 秀治 (赤中学校 主幹教諭)	研修員	大隈 淳二 (池尻中学校 主幹教諭)